

UNISON プロジェクト

国際カンサットプロジェクト



平澤 遼

(慶應義塾大学)

背景

❖ 国際協力による宇宙開発

- GPM/DPR, BepiColombo
- ISS, 次世代探査計画



各国の得意な技術を結集, 予算を分担

❖ UNISEC/UNISON の課題

- 技術力
- 資金力

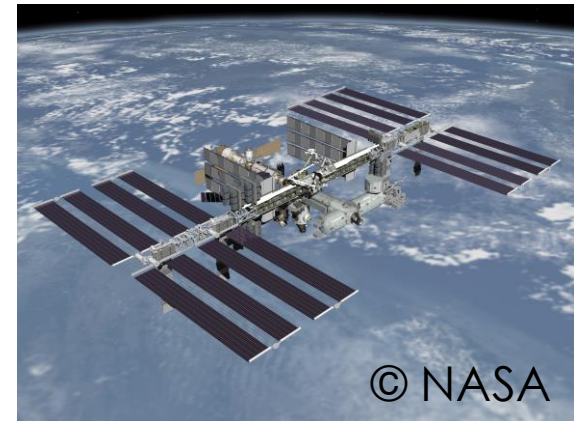
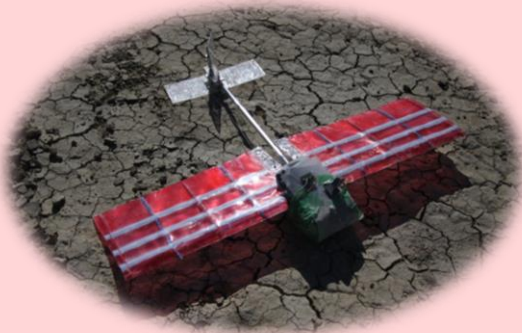
国際協力により, 解決できる可能性

本プロジェクトの目的

学生による国際協力プロジェクトの第一歩として、
国際協力によるCanSatを開発し、ARLISS 2016での
カムバックミッションを成功させる

CanSatでの国際協力

- 情報共有ハードルが低い
- 国際協力のモデルケース



プロジェクトメンバー

- 平澤 遼 慶應義塾大学
 - Adelaida C. Duran 九州工業大学
 - Rafael R. Leon 九州工業大学
- ※その他, 海外学生の 5名によりを構成



プロジェクト参加大学の分布 (2015年8月2日現在)

参加者 募集中!
(日本人OK!)

得られる成果

❖ 効率的なプロジェクトマネジメント

- 具体的な調査
- それらを克服する解決策を検討

国際協力のしい点

- 情報共有が困難である。
- サブシステムの統合が困難である。
特にハードウェアの統合および試験^性困難^異。
- 各地域のコンポーネントの入手が異なる。
- 各国の製品規格が異なる。
- 言語壁が存在する。

得られる成果

❖ 効率的なプロジェクトマネジメント

- 国際協力の難しさを解決するキーポイント
- BBMが非常に重要
 - 各国の役割分担，購入品の規格統一

❖ 日本のプレゼンス

- 将来的な大型プロジェクト
- 今後，各国の協力を得る環境整備に貢献

予算・スケジュール

❖ 予算

購入物品	使用目的	金額
BBM開発費	BBMの開発を行う	¥50,000
EM開発費	EMの開発を行う	¥50,000
FM開発費	FMの開発を行う	¥100,000
各国間の運送費	国際宅急便により運送する	¥100,000
	合計金額	¥300,000

❖ スケジュール

2015年						2016年								
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
← BBM →			← EM →			← FM →						Launch		
			PDR					CDR				FRR		

将来へむけた大きな一歩。

ぜひご投票ください！